

## 中野区のユニバーサルデザインの背景として考慮すべき区の特徴について

### 1. 基本構想・10か年計画の策定時に整理した中野区の課題

#### ①少子高齢化・人口減少社会への対応

- 中野区では、今後10年間で生産年齢人口がピークを迎え、緩やかに減少に向かうと想定。
- 中野区の平成26年(2014年)の合計特殊出生率は0.99と持ち直しているが、23区全体での1.19と比べ依然低い水準にあり、現状のままでは少子化は進み、人口減少も進んでいく見込み。
- 区はこれに対して、2020年までに1.12に上昇させることを目論んでいる。
- 高齢化は今後平成37年(2025年)に向けて、65歳以上の前期高齢者だけでなく75歳以上の後期高齢者も著しい増加が見込まれる。
- 中野区は、現在約33,000人の後期高齢者が、10年後には約37,000人となると推計。

#### ②グローバル化の進展

- 2020年東京オリンピック・パラリンピックを機に、区の産業や都市観光の魅力を国外へアピールし、グローバルな経済活動や、地域社会の基盤形成が求められる。
- 多種多様な価値観、考え方を受け入れ、活用し、グローバル社会に向けて中野の魅力などを積極的な発信、来訪者の増加による、更なるにぎわいなど、新しい中野の機能づくりが求められる。
- 区に在住する外国人や区を訪れる外国人が増加しており、多種多様な価値観、考え方を受け入れ、女性、高齢者、障害者等、すべての人がそれぞれの意欲や能力に応じ、地域社会の活動に参加する、全員参加型社会を目指すことが必要。

#### ③新たなまちづくりの取り組み(中野区主要まちづくり事業)

グローバルな経済活動、商業振興、文化振興の拠点として、中野駅周辺の新たなまちづくりを進めている。

- 西武新宿線沿線の連続立体交差化を契機とした、交流拠点のまちづくりに取り組んでいる。

### 2. その他の考慮すべき視点

- ①都心に近い交通の便の良さと、人口が集中する都市型のまちという中野の利点を活かし、少子化対策やグローバルな展開を視野に入れた都市の基盤を拡充して行くことが必要。
- ②転出・転入の人口に占める率が23区平均よりも高く、20代は大きく転入超過となっているものの、30代、及び10歳未満に転出超過がみられることから、出産を機に転出する姿が見て取れる。